



宮崎国際大学マスコット
キャラクター ミック



昨年度卒業式後の集会の様子

宮崎国際大学教育学部では
第5期生が卒業します。

宮崎国際大学教育学部ニュースレター

教育学部は新型コロナウイルスの影響を跳ね除けて頑張っています!!

副学長・教育学部長 福田 亘博



本ニュースレター（前号）で、次年度の教員採用試験二次試験では集団討論が復活するのではないかと書きましたが、新型コロナウイルスがデルタ株からより強い感染力を持つオミクロン株へと変異し、国内・宮崎県でも急速な感染拡大が続き、第6波の到来となりました。この後いつピークに達し、その後収束に向かうのか全く予想が立ちません。集団討論の復活は予測が難しくなってきました。いかに感染しないように毎日生活をおくるかということが最優先の現在、このコロナ禍で、本学でも今年に入りついに学生の中に感染者がいました。また、感染者の周りでも濃厚接触者が発生するに至り、再びオンライン授業に変更されました。教育学部は教員養成課程として、オンライン授業においても各教員はそれぞれの講義の教育法について工夫・実践し、最大の教育効果を上げています。なお、新型コロナウイルス感染の予防法は、3度目のワクチン接種及び家庭内外における「三つの密」を避ける行動やマスクの着用・手指消毒しか手立てがないように思われます。

さて、今年度の教員採用試験では、二次試験で新型コロナの感染拡大のため集団討論が中止となる状況の中、4年生がよく頑張ってくれました。全体では現役合格者は20人（宮崎県16人、大分県3人、熊本県1人で、現役合格率も87%を達成）で、また宮崎県のみでは現役合格率は90%でした（宮崎県内の大学でトップの合

格率です）。また、卒業生でも合格者が続出です（宮崎県7人、熊本県・鹿児島県でそれぞれ1人合格）。今年度の最終的な合格者数は29人となりました。このような高い合格率は学生の集中的・継続的な学習・頑張りと教育学部における入学後の体系的・段階的に配置された教育カリキュラム、そして、これに連携させた理数科ゼミや英検対策講座及び充実した学内外教員及び講師による教員採用試験現役合格のための対策講座によるものと考えています。

このような教育成果は、教育学部ではここ数年定員充足（学生定員50人）を確実に達成するという結果に反映されるようになりました。入学から卒業までの本学独自の教育システムを構築することにより、学生諸君が希望どおりに教員・保育者になれる好循環を作り上げました。教育学部長として責任の一端を果たすことができ自画自賛しています。今後とも、入学した学生諸君が教員・保育者として、必ず自分の夢が達成できるように、教職員が一丸となって支援していきたいと思えます。皆様にはこれまで以上にご協力・ご支援をいただきますようよろしくお願いいたします。

目次

教育学部は新型コロナウイルスの影響を跳ね除けて頑張っています!!	1
これからの輝く人生を祝って	1
卒業を控えた4年生の声	2
中学生を対象とした英検対策講座の講師を務めて	3
卒業論文発表会	3
数学検定対策講座	4
入試広報部からのお知らせ	4

これからの輝く人生を祝って

教育学部准教授 日高 まり子



4年生のみなさん、卒業おめでとうございます。「気づき、感じ、響き合い、つながりあう」をテーマに、表現力豊かなみなさんとともに音楽できたことを感謝しています。人と出会うことは偶然ではなく必然です。たくさんの出会いがあったこの大学での4年間は、一人一人が歩んできた道と重なり合った尊い歳月となっていることでしょう。「体験以上のことは教えられない」と音・音楽の響

き合う講義の中で繰り返し伝えてきました。みなさん一人一人の学生生活でどれだけの出会いの体験があったことでしょうか。それは人との出会いであり、学問との出会いであり、身体全体に響きわたる音楽との出会いの体験であったと思います。体験をつないできた大切な大切な、貴重な時間が思い出となり、皆さんの未来に輝き続けることを祈っています。

さあ、それぞれの輝ける人生の道に向かって歩き出そう。

卒業を控えた4年生の声

4年間を通して学んだこと

教育学部4年 福永 祐哉

宮崎県公立小学校教員内定
(宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校出身)



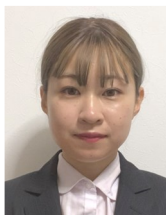
大学生生活4年間を通して、継続して取り組むことの大切さを学びました。私は、教員採用試験合格を目指し、毎日コツコツ勉強することに努めました。平日は、教員採用試験対策講座や理数科模擬授業ゼミなどの講義に積極的に参加し、休日は、講義や過去問の復習に取り組みました。このように、毎日継続して取り組むことで、日々の知識の定着を感じることができ、楽しく勉強に取り組むことができました。そして、教員採用試験に合格することができました。

今後の抱負としては、教師になった際にも、この大学生活で学んだ継続して取り組むことを生かしていきたいです。初任者のうちは、教師として必要な指導力やマネジメント力など足りない面がありますが、継続して自らの資質能力を高めることに取り組み続ける姿勢を持ち、子どもたちだけでなく教師である自分も共に成長していけるよう頑張りたいです。

学び続ける教師を目指して

教育学部4年 長町 桃花

宮崎県公立小学校教員内定
(宮崎県立高鍋高等学校出身)



私は大学の4年間で、教科力・教育実践力を身に付けることができました。1年生の頃は、人前に立つことが苦手で、模擬授業の度に頭が真っ白になることもありまし

た。そんな自分を克服するために、学内で開講されている理数科模擬授業ゼミや英検対策講座、教員採用試験対策講座に積極的に参加しました。

4年間、教員になることを目指して頑張れたのは、先生方・友人・家族がいたからです。学問の深化だけでなく、時には自分と異なる考えを受け入れることを経験したことで、自分の人間性が豊かになり、倫理観も高めることができたと思っています。この場で全てを語り尽くせませんが、教育について追究する楽しさを学びました。

4月からは宮崎県の教員として働きます。今以上に教育者としての資質能力を高めるために、新採1年目をスタート地点として、教育界に貢献していけるよう自己研鑽に努めたいと思います。

幼保コースでの学びを通して

教育学部4年 手島 実祐

ひろせ幼稚園内定
(宮崎県立宮崎北高等学校出身)



私は、幼保コースで保育の基本的知識や実践力を身に付けることができました。保育専門の講義で、グループワークなどを通して友だちと意見を交換しながら保育者の在り方や資質・能力などを学びました。保育者養成実践講座では、模擬保育をする機会がありました。子どもの姿をイメージしながら指導案を作成し、どのような援助や準備物が必要かを考え、活動を行うことができました。その後の反省会では、先生方や友だちから意見をいただき、さらに後輩の意見も聞くなど、様々な視点から多くのことを学びました。

また、実習で研究保育を行った際に、先生から「一人一人の子どもを気にかけて援助ができていた」「日誌がよく書けていた」など、ありがたい言葉をいただきました。この時に、これまでの大学での学びがしっかり身に付いているのだと実感しました。

4月から、保育教諭として働きます。これまでの大学での学びを生かし、誰からも信頼される保育者になれるよう頑張ります。

教育学部でしか学べないことを強みに

教育学部4年 横井 光太郎

小林市役所(事務職)内定
(宮崎県立小林高等学校出身)



私は、宮崎国際大学に入学し、日々の講義や実習等を通じて多くのことを学び、自分の将来に関する考え方が変わってきました。小学校教育実習では、不登校やいじめ等の様々な問題に触れ、そこには家庭環境が深く関わっていることを学びました。また、介護等体験では障がい者就労支援施設での実習を通して、ハンディキャップのある方々とコミュニケーションをとる中で、家庭との連携や地域からの支援が必要である現実を目の当たりにしました。

私は、教育学部での講義や実習等を通じて、小学校等の教育現場だけでなく、地域に暮らす子どもたちや高齢者、そして、ハンディキャップのある方々、性的少数者など全ての方々にとって暮らしやすい、笑顔あふれる街づくりを行いたいと思うようになりました。

4月からは、地元の市役所に就職します。宮崎国際大学教育学部で学んだことを強みに、特に子育て支援やひとり親家庭への支援、学校教育の更なる向上に向け、精一杯力を尽くしたいと思います。

教育学部学生が**英語力推進サポーター**として西都市教育委員会が主催する英検対策講座(英検一次試験対策)の講師を務めています。対象は英検3級・4級取得を目指す西都市内の中学生です。昨年12月には、西都市教育委員会から**英検合格率が格段にアップした**との感謝のメッセージが届きました。英語力推進サポーターを務めた学生の内、3年生5名がこの活動について話し合い、記事を作成しました。

どんなことを工夫したか

全員が共通して、ポイントを押さえられるように工夫しました。文法では、よく出る表現を口に出して何度も言わせたり、色ペンでチェックを付ける時間を設けたりするなど基礎力を向上できるようにしました。

どんな点が難しいと感じたか

生徒の実態が分からない、指名のタイミングがつかめない、計画どおりにいかないなど難しい点が多くありました。話している中で、「私も難しかった」「確かに」など共感する声が多く聞かれ、みんな同じ悩みを抱えながら一生懸命取り組んでいるのだと感じました。

学んだことは何か

「指名」の大切さを学びました。一方的に話していると私たち自身も生徒も集中力がなくなっていました。しかし、指名をして双方向のやり取りをする機会があることで、講座全体に緊張感が生まれると感じま

した。この体験が学びに繋がり、今後に活かしていきたいと強く思いました。

それぞれやりがいや不安を感じながらも真剣に向き合いました。合格率が上がったという連絡を受けて、やってよかったという達成感が生まれ、英検対策講座で講師を務めた私たちにとって貴重な経験になったと思います。



後列左から教育学部3年 中菌 鈴(宮崎西高校出身)、清水舞(宮崎西高校出身)、黒木 明美(人吉高校出身)、前列左から岩切 翔聖(宮崎北高校出身)、青木 慎吾(延岡高校出身)

卒業論文発表会を終えて

教育学部4年 小菌 俊裕

静岡県小山町役場(保育教諭職)内定
(宮崎県立宮崎工業高等学校出身)



「身近に生息する生物を題材とした新しい教育・保育教材の開発～オカダンゴムシの交替性転向反応に着目して～」という題目で研究発表をしました。交替性転向反応は、連続するT字型の分岐があった場合に、一つの分岐で動物がある方向に曲がると、次の分岐では前とは逆の方向に曲がる傾向のことです。私は、生息環境や性別の違いが交替性転向反応の頻度にどのように影響するか研究を行いました。

また、交替性転向反応を題材に電子紙芝居を作成し、こども園の5歳児110名にダンゴムシの生態についての保育実践をさせていただきました。実践中の園児の発話記録と実践の補助をしてもらった学生からエピソードを収集し、実践中の園児の興味の対象を考察しました。

実践後には、園児から「また来てね」など言葉等ももらい、研究を行う上での力の源となりました。卒業論文での学びを生かし、これから保育者として生き物に親しみが持てるような環境を構成していきたいと思います。

卒業論文発表会講評

教育学部教授 河原 国男



卒業論文発表会はコロナ感染拡大を防ぐため、Zoomを使ったオンラインで実施されました。全体会での学部長挨拶後、4会場に分かれて研究発表が行われました。

4年間の「集大成」(福田学部長)というにふさわしい内容の発表会でした。「卒業論文」では知識、理解、思考力、コンタクトをとって指導を仰ぐ取組み、言語で要旨をまとめる力、プレゼンする力、質問に対して回答する力等が期待されると学部長は冒頭挨拶で指摘されました。5年目になって、それらの力が年々向上している、とも話されました。

パソコン機器の不具合で時間経過を告げる音声聞こえず、発表時間が超過して、質疑の時間が確保されなかった学生がいました。その後の10分の休憩時間に、責任者の保田先生がその学生のために、質疑の時間を設けました。発表終了後、その学生に対して、「質問の時間をとっていただきよかったね」とメールしました。すると、その彼から「保田先生には別途本日の件についてお礼の連絡を致します」と返信。不具合があった事実を受け止めつつ、挽回の機会が与えられたことに感謝できること、こういう資質能力も、「集大成」の一つなのですね。

第一会場には、数名の3年生が参加してくれていました。来年がまた楽しみです。

数学検定対策講座

数学検定対策講座

教育学部教授 渡邊 耕二



理数科教育の充実の必要性は、小学校学習指導要領に明記されています。つまり、算数・理科を十分に指導できる小学校教員が求められています。特に、算数は国語に次いで授業時間数が多く、その指導力は小学校教員にとって不可欠です。算数の指導力向上に向けて、教員自身の数学力は必須です。なぜならば、数学的な見方・考え方に不慣れであれば、算数の指導力向上は期待できないからです。

そこで、数学検定という数学の資格取得を目標にして、学生の数学力向上を目指して本講座を開講しました。学生同士の学び合いによる、数学に対する姿勢の向上という相乗効果も期待して、数学検定2級を取得している学生が講師を務めています。

どの教科もそうですが、基礎学力は1~2週間の短期間では身に付きません。本講座を活用して、長期的に数学と向き合い、指導力向上に向けた基礎学力を身に付けてほしいと思います。

数学検定対策講座の講師を努めて

教育学部4年 佐藤 大輝

宮崎県公立小学校教員内定(延岡学園高等学校出身)

今回、数学検定対策講座の講師を3名で務めています。講座は準2級レベルの内容を中心に進めています。

講座を進める中で、私自身も多くのことを学んでいます。他の講師と模範解答の詳細を確認したり、模範解答を受講生に分かりやすく伝えるための手立てを考えたりなど、私も数学的な思考を深める絶好の機会になっています。

数学は「量をこなす」ことがとても重要なことの一つだと感じています。なぜならば、解けなかった問題が解けるようになることで、いろいろな問題に取り組む楽しさを実感できるからです。また、難しい問題に挑戦して解けたときの達成感も、量をこなすことによって得られます。「楽しい」「もっとやりたい」と思えるまで、「量をこなす」をキーワードにして、受講生みんなで数学の力を高めたいと思います。



対策講座の様子中央が佐藤さん

入試広報部からのお知らせ

お問合せ先

TEL 0120-85-5931

MAIL admissions@sky.miyazaki-mic.ac.jp

LINE相談受付中

「入試制度について知りたい」など、見学会に行くことが出来ない、という高校生・保護者の方のために、公式LINEアカウントのチャット機能をオープンしています。お気軽にお問合せください。



QRコードを読み込んでお友達追加！

EVENT情報

ウェブサイトはこちらから ↓

オープンキャンパス 開催月：7・8月(予定)

内容：学部説明、体験授業、卒業生・在学生体験発表、学食体験、個別相談会 など

週末キャンパス見学会&相談会 開催回数：年8回

内容：学部説明、入試相談、受験対策講座

※日程等の詳細は決定次第本学HPにてお知らせします。

個別の見学会・相談会も受け付けております。ご希望の方は事前に入試広報部までご連絡下さい。



YouTube



宮崎国際大学

〒889-1905 宮崎県宮崎市清武町加納丙1405番地

電話：0985-85-5931

FAX：0985-84-3396

ホームページ：<http://www.mic.ac.jp>

国際教養学部 比較文化学科
教育学部 児童教育学科



宮崎国際大学